

る所は、さすが末代なりといへども、十方旦那の信仰も甚しければ、自然に法輪も、食輪も盛也。不律、不如法の僧侶の肩をならぶる處は、只僧家謗法の罪をあたふるのみにあらず、合力貴敬の輩もなければ、隨日衰微して、荒廢の地とのみなれり。されば共に誠の本意にはあらねども、二をくらぶれば、人の貴敬せざらん事には、ゞかりて、不律儀にあらずば、暫法命を繼方はまさるべく候也。又所領のよせてよかるべき寺も候はんすれば、左様の所に、御計なんとも候べしかる寺に、所領なんどの候はんは、中々法の爲よろしからじと覺候、返々かやうに佛法を御崇候事、有難候へども、此所に限ては、存旨候とて、返し給ひけり。

〔太平記三十五〕北野通夜物語事附青砥左衛門事

引付ノ人數ニ列リケル青砥左衛門○中略或時德宗領ニ沙汰出來テ、地下ノ公文ト、相模守ト、訴陣ニ番事アリ、理非懸隔シテ、公文ガ申處道理ナリケレドモ、奉行頭人評定衆皆、德宗領ニ憚テ、公文ヲ負シケルヲ、青砥左衛門只一人、權門ニモ不恐、理ノ當ル處ヲ具ニ申立テ、遂ニ相模守ヲゾ負シケル、公文不慮ニ得利シテ、所帶ニ安堵シタリケルガ、其恩ヲ報ゼントヤ思ケン、錢ヲ三百貫、俵ニ裏テ、後ロノ山ヨリ、潛ニ青砥左衛門ガ坪ノ内ヘゾ入レタリケル、青砥左衛門是ヲ見テ、大ニ忿リ、沙汰ノ理非ヲ申ツルハ、相模殿ヨリコソ、悅ヲバシ給フベケレ、沙汰ニ勝タル公文ガ、引出物ヲ取ベクハ、上ノ御惡名ヲ申留ヌレバ、相模殿ヨリコソ、悦ヲバシ給フベケレ、沙汰ニ勝タル公文ガ、引出物ヲスベキ様ナシトテ、一錢ヲモ遂ニ不用、廻ニ遠キ田舎マデ、持送ラセテゾ返シケル。

〔志士清談〕中村式部少輔一氏之從者大藪新右衛門ト云、武士アリ、戰ニ臨テハ勇敢ニシテ功名ヲ不爭、利祿ヲ不貪、世ニ處テハ眞實ニシテ、虛妄ヲ不行、才力ヲ不恃、秀吉小田原ノ北條氏政ヲ伐時、山中ノ城ヲ攻ルニ、大藪ハ渡邊勘兵衛ヨリ先ニ進テ、而モ城兵ト鎗ヲ接シタレドモ、其所異ナルガ故、秀吉ノ褒美ニ預ラズ、一氏モ亦秀吉褒美ノ詞ニ由テ、渡邊ニ祿ヲ増テ、大藪ヲ賞スル事薄シ、